



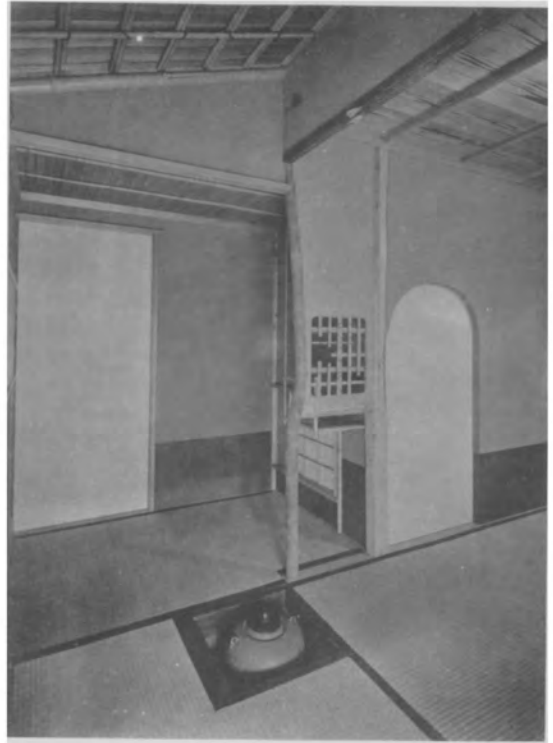
成聚屋寄數

顧問
高橋義雄
正木直彦
編修
北尾春道

近代數寄屋名席聚
現代茶室

東京牛込

洪洋社發行



有樂庵

松
風
に
た
な
び
く
雲
や
み
だ
れ
窓

(春
道)

近代の數寄屋——それは現代の社會生活に生き、あらゆる近代文化に包容されてゐる現代人の好によつて、新らしく建築された數寄屋ではあるが、他の多くの現代建築とはその趣を異にして、全く茶道特有の雅境におかれてゐる建物である。随つてその建築的目的條件も現代の繁雜な都會生活の反面に、或る自然的な要求として簡雅幽邃な境致を求め、ため、數寄屋を造る場合があり、或はあらゆる藝術の趣味的生活の高調期に達し、遂に佗と寂に生きた茶道の仙境に親まんとして、幽雅な數寄屋の構想を求める場合がある。更に又かうした個人的な趣味をはなれて、古往の有名な茶匠や歌人、名流の人々に由縁ある名蹟地に對し、その人格や行狀に敬慕、追憶、寄信等のための記念的建築物として、風雅な表現を基調とする新らしい數寄屋もあり、其の他大庭園中の一添景物として取扱はれた特別な場合等もある。而してその多くの數寄屋は、現代における茶匠の指導設計によるものも尠くないが、古往の巨匠達の遺構に成れる名席を寫して新らしく造立されたもの、または名席の意匠や寸法を參考として、多少新しい創意的構想を織込んで建てられたものもある。或は全く獨自な見解のもとに、創作的意匠を表現されたものも尠くない。これ等多くの數寄屋が、假

令桃山、徳川時代の様式を襲踏し、その寸法意匠の一部を寫し得てゐるものとしても、その建築的内容や表現せる構想には、やはり現代人の生活趣味の意識が判然と浸透して、近代文化の表徴を窺ふことが出來得るのである。

惟ふに現代日本の建築が、最近は近代的大都市を中心として、あらゆる意味における建築の科學化、工業化が發展し、また様式の國際化が呼ばれつゝあるの時、ひとり數寄屋建築のみが依然として根強く我國特有の木造の手工藝的建築として、一步も異國の様式に浸潤されず、しかも古典的な感情さへも見えずして、常に清新——簡雅な日本的な姿を表明し、かくして美術日本の最高文化を象徴する茶道藝術と共に、現代の數寄屋も悠久に盡きない生命が漂つて、純粹日本建築の一分野を保持してゆくべきものであらう。

本輯は大正末期より昭和現代に至る、比較的變化と自由な意匠に富むところの茶室を収録し、以て近代數寄屋名席聚(現代茶室)として江湖の諸賢に供するの光榮を得た次第である。

昭和十年夏

紫雲洞

北尾春道識

凡 例

○本聚は大正末より昭和現代に建てられたる近代數寄屋を擧げ、現代茶人好として各邸内や別荘内に造立されたもの、寺院や史蹟地に一つの記念建築物として建てられたもの、大庭園内に一添景物として設けられたもの等を蒐集して掲載したものである。

○圖版の解説にはその建築年代や、造立趣旨等を記し、尙各圖に對する意匠、著想、構成等の詳細を記述したものである。

○平面圖及姿圖は、各卷同様最近の實測に據りしもので、特に茶庭の配石等は茶席と最も深い相對關係にありて興味深きもの故、出来るだけ精確を期した積りである。

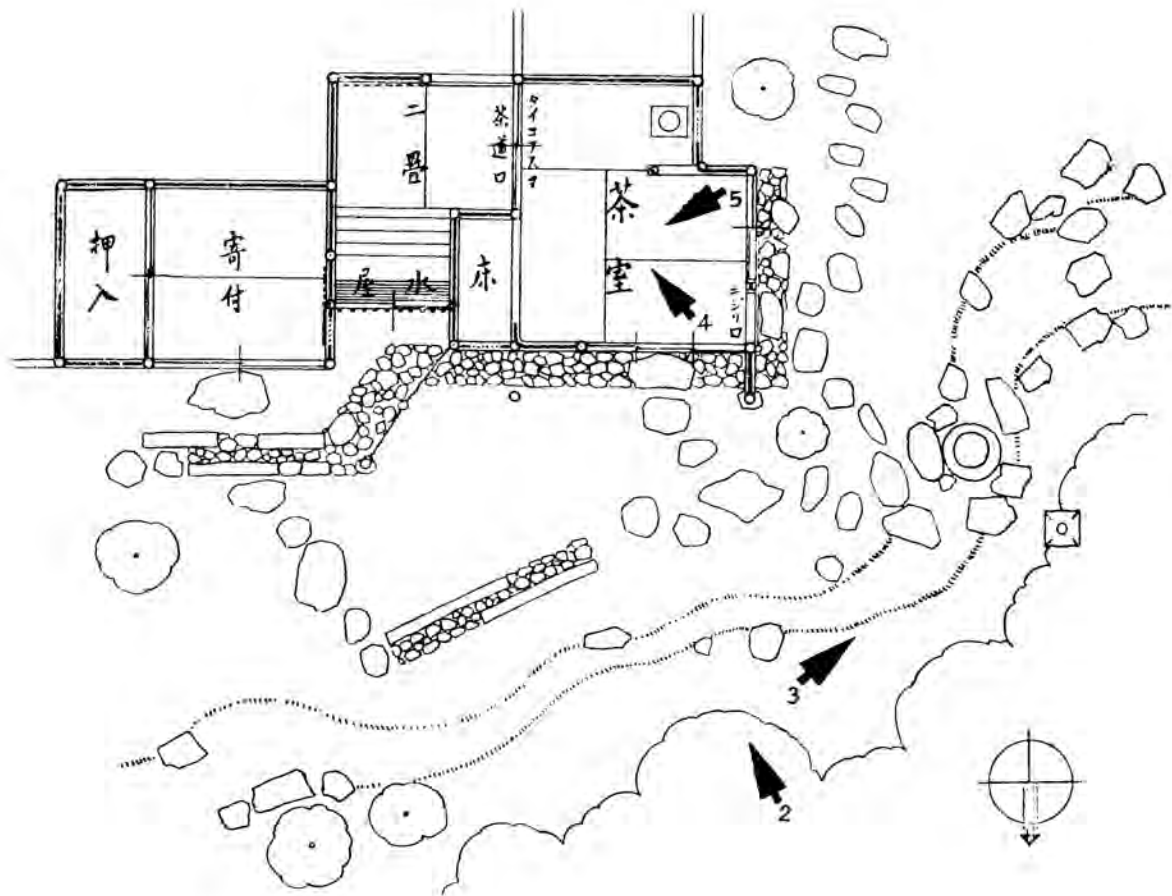
○本聚掲載のため撮影實測等に對し御寛容くだされし方々、及今回藤原銀次郎氏が瑞國へ寄贈されし瑞暉亭の假組立を行ひ、秩父宮同妃兩殿下の臺覽を仰ぎたる際特に同氏及柘植曹谿氏の厚意により撮影實測をなし得たことを、こゝに深謝する次第である。

圖 版 目 次

席名	所在	好
洗月亭	京都・銀閣寺	銀閣寺 (一一六)
孤雲亭	京都・寂光院	寂光院 (七一)
寶集會茶室	兵庫・寶塚植物園	千宗左惺齋 (二一八)
三玄亭	京都・平井別邸	平井仁兵衛 (一九四)
斑鳩庵	東京・根津邸	根津嘉一郎 (二五三)
時雨亭	京都・厭離庵	大澤常覺 (三一六)
有樂庵	東京・高橋箒庵	高橋箒庵 (三七四)
森岡別邸新茶室	鎌倉・森岡別邸	森岡平右衛門 (四一五)
貴喜亭	京都・吉田山	谷川茂庵 (四一五)
蓮華院茶室	横濱・三溪園	原富太郎 (六一六)
雨寶庵	鎌倉・前山別莊	前山久吉 (六一六)
瑞暉亭	瑞國・博物館	藤原銀次郎 (六七七)

京 都 ・ 銀 閣 寺
洗 月 亭

建	築	年	代	式	昭	和	九	年
様					草	庭	閣	式
好					銀			寺
席					四			壇



1 洗月亭平面圖

名稱 洗月亭

位置 京都市左京区銀閣寺町慈照寺

梗概 文明年中に足利義政公により創建されたる銀閣寺には、我國數寄屋の源流をなす東求堂同仁齋があり、また徳川末期に於ては集芳軒茶室が造立され、而して今回新たに発見されたる東山時代の庭園に關聯して、昭和九年洗月亭が建造されたのである。東山時代の最も初期の茶室と昭和現代の新茶室が對立して、様式や意匠の表現が各々其の時代の文化を物語つてゐる。義政公遺愛の井泉より連る清流を茶庭に配し、瀟洒な構想になる近代數寄屋である。

- 1 平面圖 慈照寺庫裡の寶物陳列室に連接して新築された平面である。
- 2 外觀 切妻瓦葺妻入、庇は柿板葺、破風に「洗月」の扁額が掲げられてゐる。三枚建腰障子の貴人口及開口より茶席に通じ、亭の前面は飛石を配して清流を爲し、傳統的な香りと共に、近代的な情趣が横溢してゐる。
- 3 茶庭 銀閣寺の豪華な庭園に對して、この茶庭は最も自然的な配置のもとに、野趣の妙諦に生きた平庭の形式で、淡々たる水流の中に躑躅が構へられ、不均整に配せられた飛石や延段等があり、貴人口より望む茶庭の景趣として觀賞に値する。
- 4 茶席の天井 廻縁、柱、隅木等すべて晒丸竹を使用し、藤がらみの亂小舞、ノネ板天井は所謂化粧屋根裏を表はし、月を象徴化した床の間に對して、天體を思はせる構想であり、竹の節様の欄間がこれに相和してゐる。
- 5 床の間 所謂月待山の月を象徴する床の間で、墨蹟窓を備へ、其意匠は自由と變化に富む近代的着想が窺はれるものであり、席は四疊である。
- 6 茶道口と風爐先 茶道口は太鼓襖の引違で、給仕口を兼ね、中柱は竹を使用し、風爐先の腰部は張襖の形式で、すべて單調な構想になり、高雅な手法が表現されてゐる。

Contemporary Chashitsus (tea-ceremony houses)

Name.—Sengetsu-tei.

Place.—Jishōji (Ginkakuji), Kyōto City.

History.—This tea-ceremony pavilion was built in the 9th year of Shōwa in the grounds of the ancient Buddhist temple where exist two famous tea-ceremony houses of old times, Dōjūsai and Shūhōken.

- (1) plan. This pavilion is adjacent to the treasure-house of Jishōji.
- (2) Exterior. Tile-roofed pavilion of *kirizuma-tsumairi* style with shingle-pent-roofs. The tablet with the name of Sengetsu is put up in the gable. The *kijin-guchi* (entrance reserved for special guests) with three *koshi-shōjis* (paper sliding doors with high boarded skirtings) opens into the tea-room. A clear stream and stepping stones are arranged in front of this pavilion.
- (3) Tea-garden. View from the *kijin-guchi*. *Tsukubai* in the clear stream and asymmetrical stepping-stones are seen. This small garden is alive with rural simplicity that is in striking contrast to splendour of the garden of Ginkakuji (Buddhist temple).
- (4) Ceiling of the tea-room. Open roof which is made of chips suggests the sky as opposed to the *tokonoma* (alcove) which symbolizes the moon. Bamboo poles were used for construction of many parts.
- (5) *Tokonoma* of the tea-room which has three mats and a *daine* (two-thirds mat). *Bokusekimado* (window of better lighting the *lakemono* of *tokonoma*) is added.
- (6) Doorway for *chanoyu* service and the *fūrosaki* (end corner beyond wind-furnace). This doorway serves for a doorway of waiters, too. The *nakabashira* (central pillar) is of bamboo. The skirting of the *fūrosaki* is covered of papers.



2 洗月亭外觀



3
同上
茶庭